

令和6年度 神戸大学 地域連携推進本部 地域連携事業（個人型）

平野プロジェクト 2024：

ユーザー中心の課題解決によるまちづくり・商店街活性化

活動報告書

経営学研究科 教授 内田浩史

■事業目的

本事業の目的は、神戸市兵庫区の平野地区をフィールドとして、ユーザー（地域の方々）中心の事業構築を行う授業を実施することで、学生が他の形式の授業とは違った学びを得るとともに、こうした学びの成果を通じて地域のつながり作り、活性化をもたらし、社会課題の解決につなげることである。

■活動内容

本事業はプロジェクト・ベースド・ラーニング（PBL）形式の2つの授業（経営学部・V.Schoolの「研究指導（ゼミ）」と専門科目「ソーシャルビジネスプランニング」）を中心としつつ、これらの授業から生まれた事業アイデアの具体化を授業外でもサポートし、地域社会への実装につなげようとするものである。受講者は、社会課題を解決するための手法であるデザイン思考を用い、現地で実際にインタビューを行い、地域で暮らすユーザー（解決策としての事業の利用者）の立場に立ち、求められているもの、解決すべき課題を設定し、その解決方法を検討して事業として構築し、試行して地域社会への実装を目指した。

こうした内容は、過去5年にわたってデザイン思考と経営学の実践とを組み合わせ、行政や非営利組織と連携して実施してきた授業で実践してきたものをベースとしている。本事業では、兵庫区平野地域で地域の課題解決に関わっている社会的企業、商店街、地域の非営利組織、行政の方々との連携により、1年をかけて実施した。連携先は、平野商店街で地域の活動を実施する拠点 KIKKAKE PLACE を運営する㈱スクリーフ、同氏を通じてご協力をお願いした平野地域子ども会、平野商店街であり、兵庫区役所地域協働課にもご協力をいただいた。

本事業で行った活動は以下のとおりである。

①	4/7	ゼミ生現地ワーク	KIKKAKE PLACE・平野商店街見学、子ども食堂の手伝い
---	-----	----------	---------------------------------

②	4/9, 23, 5/14, 28	ゼミ授業	3 チームで平野リサーチ(歴史文化、子育て、その他)、ユーザーの特定
③	5/16	V.School カフェ	
④	5/23	V.School サロン第1回	
⑤	6/11, 25, 7/9	ゼミ授業	チーム再編成(カフェチーム、ミステリーツアーチーム)、イベント立案
⑥	6/29	子ども会七夕イベント参加	ゼミ生有志が参加、お手伝い、インタビュー
⑦	7/18	V.School サロン第2回	
⑧	7/23, 30	ゼミ授業	カフェイベント開催準備
⑨	8/10	工作カフェ	カフェイベント開催
⑩	9/27, 28, 30	ソーシャルビジネスプランニング実施	プロジェクト実施、子ども会フリーマーケットのお手伝い、おさんぽプロジェクト開始
⑪	10/8, 22, 29	ゼミ授業	平野クエストサポート検討
⑫	11/4	平野クエスト	
⑬	11/5, 12, 19, 26, 12/3, 17, 24, 1/7, 21	ゼミ授業	2 チームに改編して検討開始(子ども会チーム、KIKKAKE チーム)、各チーム検討、中間発表(12/24)、改善
⑭	1/28	最終発表会	

(1)経営学部内田ゼミにおけるユーザーリサーチ(2024 年度前期)

年度前半は、内田ゼミ生によるユーザー（地域課題解決の対象となる地域住民）の特定作業から事業を開始した。4 月 7 日（表の①）には現地視察を行い、KIKKAKE PLACE や同所で実施されていた子ども食堂を見学し、子ども会の方々に対するインタビューを実施するとともに、平野地区の現状を把握するためにデスクトップリサーチと現地調査を行った（表②）。また、KIKKAKE PLACE で行われている活動（神戸大学工学部建築学科・経営学部の有志が既に実施していた店舗改装プロジェクトを含む）とまちづくりに関して V.School カフェを開催するとともに（表③）、自らもまちづくりの実践に関わっておられる研究者（中央大学商学部根本忠宣教授、神戸大学工学部槻橋修教授）を招いて研究と実践の両面からご講演をいただく V.School サロンを 2 回にわたって開催し、情報収集と知見の共有、学外への発信を行った（表④⑦）。

その後内田ゼミにおいてチームを 2 つに再編成し、2 タイプのユーザー像の設定に基づき学生がイベント等を企画する作業に移り（表⑤）、現地調査（表⑥）も行いつつその具体化を図った（表⑧）。この中で、「子育て中の親御さん向けカフェ」と、平野地区の子供向けの「ミステリーツアー」という 2 つのアイデアが生まれ、2 チームに分かれて検討を行った。その結果、前期終了時に前者の企画として「工作カフェ」を 8 月 10 日に実施した（表⑨）。

(2)経営学部専門科目「ソーシャルビジネスプランニング」(集中講義)2024 年 9 月

その後、夏休みの期間を挟んで 9 月には、経営学部の授業「ソーシャルビジネスプランニング」（集中講義、1 単位）において、現地でのデザイン思考を用いた演習を実施した（表⑩）。この授業は V. School 客員准教授砂川洋輝氏とともに実施し、前期

で特定したユーザーに共感して課題を定義し、その解決法を考えた。

授業では、受講生が 6 つのチームに分かれ、現地において子ども会が開催したフリーマーケットのお手伝い（右上写真）、ならびに来場者や周辺地域の方々



に対するインタビュー（左写真）を行った上で、ユーザーのために解決すべき課題を明らかにし、その解決法を、ユーザーが参加したくなるような事業、イベントといった形で具体化し、発表を行った。

その結果、6 つのチームからは、いずれも実際の親御さんの声に基づいたアイデアが生まれた。具体的には、子どもを通じ、煩わしい人間関係なしに親同士が緩くつながることができるキッチンカーやお散歩コース（左下写真）、子育てに自信がないお母さん向けの赤ちゃん体験ロールプレイングイベント、家の中で限られた友達とゲームばかりで遊ぶ子ども達に、屋外で健康的に遊んでもらうための共有場所でのゲーム・遊びイベント（右下写真）、自分は子育て



てから解放されたいが子供には創造的な体験をしてほしい親向けの、クラフトビール
も楽しめるグラス作成イベント、SNS で発信しながら空き家をみんなで解体してコミ
ュニティーガーデンにし、農作物を作るイベント、である。

(3)経営学部内田ゼミと V.School 生による事業構築(2024 年度後期)

以上の活動を引き継ぐ形で、後期に入ってから内田ゼミの 2 チームと、V.School の学生プロジェクト 1 チームが、地域課題を解決して新たなつながりを生み出すためのプロジェクトを行った。まず内田ゼミ（表⑪）では、前期に実施できなかった「ミステリーツアー」の実施を検討したが、平野地区子ども会が同様のイベント「平野クエスト」を開催されることから、同イベントへの運営協力を行った（表⑫、右上写真）。



ゼミのプロジェクト（表⑪⑬）としては、これまでご協力いただいた子ども会と KIKKAKE PLACE に向けた提案を行うこととし、2 チームに分かれて検討を行い、1 月 28 日にすべての連携先の方々をお招きし、V.School にて最終報告会（左下）を行った（表⑭）。

学生プロジェクトに関しては、「ソーシャルビジネスプランニング」の受講生のうち 1 チームから、プロジェクトを有志で継続し、検討したアイデアを実現したい、という希望を受けたため、V.School で学生を支援する枠組み「学生プロジェクト」として登録させ、サポートを行った。同チームのプロジェクトは、ママ同士で深い人間関

係は苦手だが、他にも子育てをしているママがいることを知り、緩いつながりを作るきっかけを生み出すことができるようにするため、子育て中の親子連れ向けにお散歩コースを提案する「おさんぽマップ」を作成する、というプロジェクトである。同チームは、現地を歩いて調査を続けるとともに、子

神戸大学
経営学部内田ゼミ「神戸市課題解決プロジェクト」
V.School「FBLX：ソーシャルビジネスプランニング2」
地域連携推進本部「地域連携事業（個人型）」

平野プロジェクト2024

ユーザー中心の課題解決による
まちづくり・商店街活性化

最終報告会

 KOBЕ UNIVERSITY

ども会ならびに兵庫区役所地域協働課の皆様のサポートをいただき、ヒアリングならびに各種イベントに参加しての親御さん向けインタビューをさせていただいた。

■事業成果と今後の展開

本事業からはいくつもの成果が得られた。第一に、KIKKAKE PLACE や子ども会のイベント（現地ワーク・子ども食堂（表①）、子ども会の七タイイベント（表⑥）、子ども会のイベント「平野クエスト」（表⑫））に学生が参加・協力し、地域活動の活性化に貢献したこと自体が成果の一つである。

第二の成果は V.School カフェ・サロン（表③④⑦、右図）の実施である。これらは事業に関わる学生に学びの機会を提供するために企画したものだが、V.School のイベントとしたことで、

大学内外に対して地域の好事例や専門家の知見の共有・発信を行うイベントとなった。関連して第三の成果として、2 回の V.School サロンの内容は書籍化され、より幅



「地域課題の解決とまちづくりにおける価値：誰のためのまちづくりか」シリーズ

神戸大学V.School・経営学部で実施している地域課題解決プロジェクト（PBL授業）を出発点として、地域課題の解決という観点から見たまちづくりについて、地域のつながりづくり、地域における課題解決、商店街活性化、空家活用、といった観点から様々な活動に携わっておられる教員・実践者・学生から話題提供を受け、議論を行うことを通じて価値について考えます。

なお、このサロンはどなたでも参加が可能です。

第1回 終了しました	V.Schoolカフェ「まちづくりの実践：商店街活性化・空家活用と価値」 日時：2024年5月16日（木） 17:00-18:30 登壇者：赤山和弥（創スクリーフ、石塚石材）、工学部建築学科学生有志 概要：商店街活性化、空家活用に関わる実践者からの事例紹介を通じて価値に関して議論する。
第2回	V.Schoolサロン「まちづくりと価値：経済の視点と建築の視点」 日時：2024年5月23日（木） 17:00-18:30 登壇者：根本忠宣（中央大学商学部教授）、梶橋 修（工学部建築学専攻 教授） 概要：まちづくりに関わっておられる先生方からの、経済学・建築学の専門家（実践者）の視点から見たまちづくりに関する話題提供に基づき、価値に関して議論する。

【2024年7月】V.Schoolサロン

「地域課題の解決とまちづくりにおける価値：誰のためのまちづくりか」シリーズ

神戸大学V.School・経営学部で実施している地域課題解決プロジェクト（PBL授業）を出発点として、地域課題の解決という観点から見たまちづくりについて、地域のつながりづくり、地域における課題解決、商店街活性化、空家活用、といった観点から様々な活動に携わっておられる教員・実践者・学生から話題提供を受け、議論を行うことを通じて価値について考えます。

なお、このサロンはどなたでも参加が可能です。

第3回	V.Schoolサロン「観光まちづくりとまちづくりにおける価値」 日時：2024年7月18日（木） 17:00-18:30 登壇者：根本忠宣（中央大学商学部教授）、梶橋 修（工学部建築学専攻 教授） 概要：観光によるまちづくりの事例を紹介いただき、これまでの議論も踏まえてまちづくりにおける価値について議論する。
-----	---

広い層に向けての事例・知見の 共有ならびに大学の活動の発信を行うことができた（内田浩史編、根本忠宣・梶橋修著『経済と建築から見たまちづくりと価値：誰のためのまちづくりか』（V.School ブックレット）神戸大学出版会(2025)刊行予定）。

第四の成果は学生が実際に企画立案して実施した「工作カフェ」である（表⑨、左写真）。そこではお子さんに夏休みの自由研究としてロウソクづくりを体験してもらうとともに、その間に保護者の方々にカフェで交流していただくことで、地域のつながりを深める、またサプラ



イズとして子どもたちから保護者向けに手紙をプレゼントしてもらうことで、親子のつながりも深める、というイベントを行った。

第五の成果は、後期に進めた3つのプロジェクトである。最終発表において子ども会チームは、平野地区の子どもたちが地域や商店街を身近に感じ、愛着を持つことにつなげるためのイベントとして、弁当のアイデアを募集し、実際に商店街や地域の方々と作る、というイベント「ひらの弁当グランプリ」を提案した（左図）。

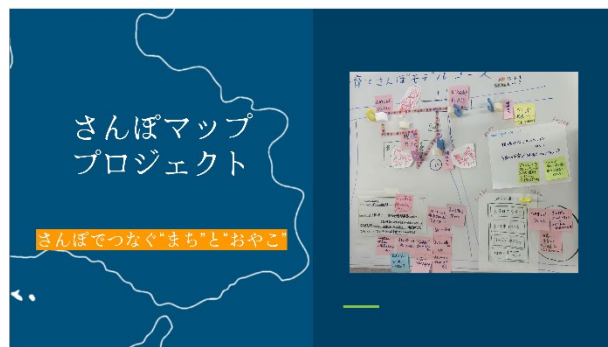
KIKKAKE チームは、商店街の古い空き店舗を改装して作られた KIKKAKE PLACE の、まだ手が付けられていない古い2階部分を活用するアイデアとして、子ども向けプログラミングや金融教育を行う教室事業を提案し、以前から同所の改装に関わっている工学部建築学科の学生有志と協働して改装のデザインも行った（右図）。

「おさんぽマップ」プロジェクトの学生3人は、小さなお子さんを連れた親御さん向けに、互いに積極的に会話するのは気が引けるが、仲間が居ることを感じ、軽い会話などにもつながる可能性のある散歩コースを示したマップを提案した。そこでは、子育てに優しい店舗の紹介など、身近で役立つ情報を発信



する工夫なども盛り込まれている（右図）。

今後は、最終的に3チームが立案した3つのプロジェクトのアイデアの実現を目指し、内田ゼミならびにV.Schoolにてサポートを続ける。また、今回築くことができた平野地区の方々との関係を活かし、新たな事業における連携の可能性を探っていく予定である。



3. 解決策

さんぽマップの提供

- ・地域の商業施設と提携、子ども連れ歓迎店をマップに掲載
- ・子供にも親にも都合のいいタイミングで、ふらっと出かけるきっかけに
- ・さんぽルート上にデジタルサイネージを設置
- ・ベビーカーを押した親御さんでも歩きやすい道
- ・子供も楽しめるしかけ

